

道徳の時間で活用する
～相互理解、寛容～

光市立周防小学校 門田 絢子

1 本場面におけるポイント

- 読み物資料として「ブランコ乗りとピエロ」を活用し、自己の考えを広げ、深めることに生かす。

2 授業の実際

1 主題名 謙虚に、広い心をもって 「資料名 ブランコ乗りとピエロ」

2 ねらい

ピエロやサム的心情に寄り添い、心を通い合わせることができた理由について探ることを通して、考えを伝え合い、謙虚に広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しようとする道徳的な心情を育てる。

3 展開

(1) 導入

教師：友達や家族とトラブルになったり、関係がうまくいかなかったりしたことについてのアンケート結果を紹介します。

- ・ちょっとちょっかいを出しただけで、弟が大泣きしてけんかになった。
- ・母に、「洗濯物をたたんで。」と言われて、腹が立ってけんかになった。

トラブルはないと答えた人の理由は、

- ・友達の話に合わせている

これらを見て、周りの人達と心が通い合っていると見えそうでしょうか？

児童：そうとは言い切れない。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

- ・事前にアンケートを行って実態を把握し、それを提示しながら本時の学習課題につなげる。
- ・資料を事前に読ませ、考えたいところや気になるところに線を入れさせておくことで、児童から出された課題や疑問を解決していけるようにする。

(2) 展開 (主な教師の発問と児童の発言)

教師：演技をしているサムと、それを見ているピエロは、どんな気持ちでしょうか？

児童：(ピエロ) くやしい。早く終わってほしい。自分の時間がなくなるじゃないか。サムはずるい。私も大王様の前で演技を見せたい。

児童：(サム) 大王様にいいところを見せたい。おれがスターだ！この時間がずっと続いてほしいな。最高！

教師：演技を終えたサムと、それを見たピエロは、どんな気持ちでしょうか？

児童：(ピエロ) 大王様に演技を見てももらえない。残念だ。私も出たかった。サムもがんばったんだな。観客を喜ばせて、盛り上げてくれたんだな。

児童：(サム) 疲れた。観客を喜ばせることができてうれしいな。

教師：ピエロとサムは、朝までどんなことを話していたのでしょうか？

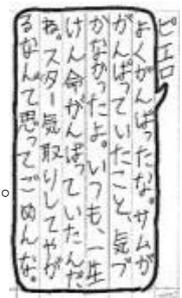
【主発問】

(ピエロ)

A児：サム的心情は分かるけど、これからは他の人の気持ちも考えてね。

B児：サム、がんばったね。気付いていなくてごめんね。サムのおかげで大王様も観客も喜んでくれたよ。

C児：サムは、お客さんのためにがんばっていたんだね。



D児：これからは、みんなでスターになろう。みんなでサーカスを盛り上げよう。

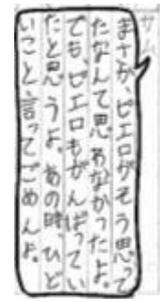
(サム)

E児：ピエロが分かってくれてうれしいな。僕をかばってくれてありがとう。

F児：自分のことだけで、他の人のことを考えていなかったよ。ごめんよ。

H児：今後は、自分だけが勝手をするんじゃなくて、みんなのことを考えていくよ。

I児：サーカスをみんなで盛り上げていこう。

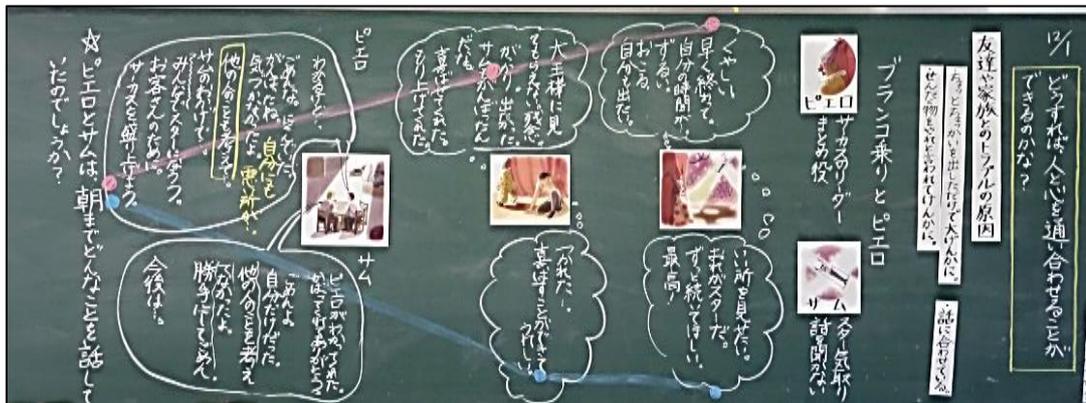


□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

- ・二人の心情を語ることを通して児童の本音を出させ、その時々二人の気持ちに寄り添えるようにし、変容に気付けるようにする。
- ・心情曲線を板書していくことで、分かり合っていく二人の心の様子を視覚化する。
- ・どうして二人は分かり合えたのかを問うことで、自分に対して謙虚になり、相手の立場で考え、納得がいくまで話し合ったから分かり合え、互いに成長できたことをまとめる【補助発問】。



【主発問での意見交流】



(3) 終末

教師：どう考え、どう行動していけば人と心を通い合わせることができるでしょうか？

J児：自分がどう考えていたのか、なぜその行動をしたのかを言い合っ、お互いに理解し合うことが大切だと思う。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

振り返りでは、普段の児童の様子やアンケート内容に戻り、それらを価値付けることで、資料と児童の生活とのつながりを意識できるようにする。それらに加え、今日学んだ新たな考えや分かったことを記述させることで、本時に学んだ道徳的価値を自分の言葉で捉え直せるようにする。

3 実践を振り返って

登場人物の心情を捉えた後の補助発問「どうして二人は分かり合えたのか。」により、心情を追うだけの授業にせず、ピエロの行為のすばらしさやその価値についても感じることができていた。今後は、めあてやねらいとする価値に直結するアンケートになるよう、アンケート内容をさらに吟味したい。また、話し合いが進むにつれて道徳的価値が徐々に高まっていくよう、机間支援の際は児童の考えをしっかりと見取り、カテゴライズしながら板書にまとめていきたい。